

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	1	5	・4つの訓練室があり、小さい部屋でも7m四方ある。ホールは12m四方あり広い。テラス・中庭もあり、広さは当事業所の強みである。しかし、日によって利用者の発達特性の偏りが生じ、より広いスペースが求められることがある。
	2	職員の配置数は適切であるか	0	6	・児発と放デイ合わせて30名の利用者に対応するため基準はクリアしているがゆとりがない。もっと多くの職員配置が望まれる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	4	2	・玄関にはスロープを設置している。10月に床の全面改修を行い、清潔で安全な訓練室環境に向けて整えた。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	3	2	・効率的な働き方に向けて意見を出し合い改善を図ってきた。残業時間や職員会の効率化、働きやすい施設環境が進んできた。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	0	・現状維持は退化でしかない。利用者の意見や協力は不可欠である。使わなくなった絵本や玩具等の寄付を募集しているが、双方に好評である。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7	0	・全利用者に紙面で結果を配布した。加えて、年内にホームページにアップする。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	6	・外部評価は行っていない。ただし、関係機関や専門家の来所時には、率直な印象を話していただき改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6	0	・研修を推奨し、資格を取得した場合には資格保有手当を法人が支給している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	0	・子ども理解についての意見交流を職員会やミーティングだけでなく日常的に行っていることで、より深く共有された支援計画を目指している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	3	・応用行動分析学に基づいた子供理解と支援に向けた見立ての在り方について取り組み始めた。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	2	1	・一か月の活動計画を立案する際に、職員相互の意見を取り入れて意図的な活動となるように立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3	0	・1か月ごとの予定表を作成し、利用者にも配布している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3	1	・平日と長期休みでは、プログラムが大きく異なる。長期休みは9時間対応するため自由時間が多くなる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	3	0	・利用者の特性を踏まえ、より個に応じた課題や活動となるように個に応じたきめ細かな支援を
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4	1	・定期的な職員会と毎朝のミーティングで個に応じた支援について共有を図っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	1	・支援終了の時間帯に児発管が振り返り交流を進行し成果と翌日に向けての課題を共有している。日をまたがない対応が望まれるケースは保護者連絡も確実にしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4	0	・連絡カードに利用状況や様子を的確に記し、保護者には毎回口頭でも説明を行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	3	1	・将来的な自立に向けて、当事業所以外の利用の促進も含め、計画的な療育が構築されるように相談支援専門員との連携も大切にしている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	3	1	・子どもの実態は常に変化し続けている。PDCAの見直しを日常の職員間で構築することを大切にしている。

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4	0	・児発管と担当保育士が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	3	0	・利用者第一であり、利用者の安定のために事前の調整を確実にしている。しかし、トラブルが発生してしまった場合には、施設長が先頭に立って対応する。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	2	1	・てんかん発作対応等、医師の指示所を基に保護者連携も定期的に行っている。職員研修も行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	1	・ケースによっては園との連携を行うこともあるが限られている。利用者が小中高生であるため、学校との連携が主である。学校連携は日常的に行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	2	1	・当然の対応である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2	1	・事業所として現場での支援について指導を受ける研修を申し込み受講した。その他の研修は個別受講が多い。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0	4	・一か月の活動計画を立案する際に、職員相互の意見を取り入れて意図的な活動となるように立案している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	0	4	・地域との連携は弱いと自覚している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5	0	・きめ細かな連携が必要であり、保護者が迎えのために来所された際に、気付いた点を共有している。連絡帳も活用している。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	0	4	・残念ながら行えていない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4	0	・身体的拘束(訓練室に施設)についても運営規定に定めている。保護者にも説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	0	・お迎えの際に必要なと思われる保護者に声を掛けて子育て相談を展開している。社会福祉士が中心となり推進している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	4	・保護者の会等は現在行っていない。希望者にフリー参観日や子育てサロンを提供することを検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	0	・毎回のお迎えの際に、保護者との情報共有を確かに行い、支援計画の共有についてもぶれを少なくすることに勤めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4	0	・不定期ではあるが、「ゆりかごメッセージ」を発行し、事業所運営に対する理解もより確かなるよう勤めている。
	35	個人情報に十分注意しているか	5	2	・職員研修を行い、常に高い意識で向き合うことに務めている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	0	・発語がない利用者に対しても意思や感情の理解について保護者との共有に心掛けている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0	4	・積極的な地域連携は行っていないが、地域の方からのボランティア協力などは喜んで受け入れている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	4	1	・マニュアルは整備している。加えて必要に応じてタイムリーに通信発行と掲示で保護者連携を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	3	1	・てんかん発作での救急搬送が起きた際にも、職員の対応研修を繰り返し、より確かな動きにつなげている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	2	1	・施設長が児童福祉司経験者であり、具体的な判断や適切な対応について職員を指導している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3	1	・強度行動障害傾向がある利用者も複数みえる。安全確保のために訓練室入口に鍵とは別にフックも設置している。身体的拘束に該当する施設であることを掲示で公示するとともに説明も行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	3	1	・対象利用者の保護者とは、定期的面談の際に確認を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5	0	・記録簿を職員が目にする場所につらし、緊急時すぐ時系列で記録ができるようにしている。

|